

幸松地区公民館・幸松第二公民館

◇運営の基本方針

生涯学習拠点施設として、地域住民の身近な学習・交流活動の場として親しみをもって来館できる公民館を目指す。

◇重点施策

- 1 地域住民の健康増進と住民相互の理解と交流を深め、学習機会の充実と公民館利用の促進を図る。
- 2 家庭教育の充実と青少年の健全育成を図る。
- 3 各種関係組織・団体との連携を図りながら、事業展開を図る。

◇重点事業

- | | | |
|-----------|-------------|----------|
| 1 こうまつ寺子屋 | 2 家庭教育学級 | 3 スポーツ広場 |
| 4 幸松地区体育祭 | 5 幸松ふれあい文化祭 | |

幸松地区公民館

所在地 〒344-0004 春日部市牛島667番地1

TEL・FAX 048-752-6065

E-mail komatsukou@city.kasukabe.lg.jp

幸松第二公民館

所在地 〒344-0007 春日部市小湊73番地1

TEL・FAX 048-761-5510

E-mail komatsu2kou@city.kasukabe.lg.jp

職 員	館 長 (兼務)	宇 内 啓 介
	主 査 (兼務)	當 間 雄 一 郎
	主 任 (兼務)	蛭 間 博 文
	主 事 (兼務)	段 春 菜
	フルタイム (兼務)	磯 野 良 英
	フルタイム (兼務)	大 石 富 美 代



事業名 テーマ	スポーツ広場 バドミントン・卓球の施設開放	対象	一般	定員	バドミントン 6名 卓球 24名		
ねらい	体育室をバドミントン・卓球の会場として無料開放し、スポーツを通じて健康増進を図ると共に地域住民の交流を深める。						
協力機関 及び団体		特色 位置 づけ	重点事業	SDGs の目 標No	3		
会場	幸松地区公民館 体育室	教材 資料等	ラケット・シャトル・球・卓球台・ ネット・支柱等				
実施までの経過	公民館だよりに掲載	PR方法	公民館だよりに掲載。実施日の 前月、前々月に案内する。				
		受付方法	開催月の1か月前の月から受付				
月日(曜)	時 間	内 容	方法	参加者		講師・助言者の職名 氏 名	
回 数	総時間数			男	女		合計
4月2日(日) 3月17日(日)	第一・第三日曜日 4時間 第二土曜日 3時間30分	体育室を無料開放する。 第一・第三日曜日 8:30～10:00 バドミントン 10:00～12:30 卓球 第二土曜日 9:00～12:30 卓球	実技	132	218	350	
35回	111時間30分			132	218	350	
企画運営 上の工夫	年齢・体力等に合わせて活動できるように、選択できるスポーツをバドミントンと卓球の2 種目とした。						
成果 参加者の 声 など	初めて参加する人には常連の人が利用の仕方を教えており、準備・後片付けにいたっ ては参加者同士が協力しあいスムーズに行われている等、地域住民同士のふれあいの 場となっている。また、参加者が卓球のサークルに加入することもあり、サークル活 動の活性化にもつながっている。						
課題と展望	卓球が人気で常連以外の参加も多く、日によっては参加者が定員寸前になるほど盛況 である。市民の交流・健康増進の場となっている事業であるので、今後も継続してい きたい。卓球以外の種目(現行はバドミントン)でも参加人数が増えるようにしたい。						

事業名 テーマ	子育てサロン		対象	乳幼児とその保護者		定員	10組	
ねらい	親子で気軽に立ち寄り、育児の不安・悩みなど、子育てについて共に学び、親子が集う場とする。							
協力機関 及び団体	幸松地区民生委員・児童委員協議会 更生保護女性会		特色 位置 づ け			SDGs の目 標No	4	
会場	幸松地区公民館 講堂		教材 資料等	オモチャ・絵本・工作用具等				
実施までの経過	公民館だよりに掲載 		PR方法	公民館だよりに掲載 子育て情報メール				
			受付方法	事前受付				
月日(曜)	時間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名	
回数	総時間数			男 計	女 計	合計		
4月19日(水)	10:00～11:30  	こいのぼりで遊ぼう！	遊び 対話	3	5	8	更生保護女性会 幸松地区民生委員・児童委員協議会 	
5月17日(水)		風船で遊ぼう！		4	5	9		
6月21日(水)		七夕飾りをつくろう！		4	4	8		
7月19日(水)		牛乳パックで遊ぼう！		4	5	9		
8月16日(水)		紙コップで遊ぼう！		6	5	11		
9月20日(水)		ペットボトルで遊ぼう！		3	3	6		
10月18日(水)		ハロウィンで遊ぼう！		4	6	10		
11月15日(水)		パネルシアター		3	3	6		
12月20日(水)		バルーンで遊ぼう！		2	9	11		
1月17日(水)		豆まきをしよう！		4	4	8		
2月21日(水)		ひな祭りを楽しもう！		4	7	11		
3月13日(水)		育児相談会		2	2	4		
12回	18時間			43	58	101		
企画運営上の工夫	・毎月、季節に合わせた簡単な工作などを企画し、参加者の興味を引くよう工夫した。 ・安全面に配慮した会場づくりを意識した。(ステージ上への階段の撤去等)							
成果 参加者の声 など	リピート率が高く、アットホームな雰囲気の中で、親だけではなくスタッフも、子どもたちの成長を感じることができた。参加者からは「子どもだけではなく、親もリラックスして楽しめる」などの感想をいただいた。							
課題と展望	・一度参加するとリピートしてくれる親子が多いので、さらに工夫を凝らした企画を考え、参加者を増やしていきたい。 ・親同士・子ども同士の交流の場や、育児の息抜き・気分転換の場となっているので、今後も継続していきたい。							

幸松地区 3

事業名 テーマ	こうまつ寺小屋 ①可愛いキューピーストラップとビーズ ストラップを作ろう ②こうまつ史跡めぐり ③小学生サイエンス教室 ④女性のための健康づくり応援講座 ⑤人生100年時代！未来のための健康プロジェクト講座		対 象	①設けず ②成人一般 ③小学生とその 保護者 ④成人一般 ⑤成人一般		定 員	①25名 ②15名 ③20組 ④30名 ⑤20名
ね ら い	市民生活に身近な題材を取り上げ、地域住民の教養を高める。						
協力機関 及び団体	①幸松婦人会手工芸委員 ②春日部観光ボランティアの会 ③埼玉県立春日部東高等学校 化学部 ④明治安田生命保険相互会社 ⑤明治安田生命保険相互会社		特 色 位置づけ	重点事業		SDGs の目 標No	4
会 場	①幸松地区公民館 研修室A・B ②牛島女体神社他、幸松地区の史跡 ③④幸松地区公民館 講堂 ⑤幸松第二公民館 大会議室		教 材 資 料 等	①ハサミ、先細ペンチと目打ち ②散策のしおり ③レジュメ・実験キット ④レジュメ ⑤レジュメ			
実施ま での 経 過	3月上旬 ①企画・立案・講師決定 2月上旬 ②企画・立案・講師決定 4月1日(土) ①講師依頼 4月5日(水) ③・④企画・立案 4月21日(金) ③講師依頼 5月上旬 ⑤企画・立案 6月8日(木) ④講師依頼 7月上旬 ⑤講師依頼		PR方法	公民館だよりに掲載 安心安全情報メールにて周知 ポスター掲示			
			受付方法	①4月14日(金)9:00～窓口申込み ②4月13日(木)9:00～窓口・電話申込み ③7月1日(土)9:00～ 窓口・電話申込み ④6月14日(水)9:00～窓口・電話申込み ⑤8月1日(火)9:00～ 窓口・電話申込み			
月 日(曜)	時 間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名
回 数	総時間数			男 計	女 計	合計	
5月17日(水)	13:00～17:00	キューピーストラップとビーズス トラップの作成	実習	0	13	13	幸松婦人会手工芸委員 榎本 良子 他5名
5月11日(木)	9:30～12:30	幸松地区の史跡めぐり	見学	3	7	10	春日部観光ボランティアの会 駒田 伊藤
8月3日(木)	10:00～12:00	「液体窒素」「スライムづくり」「キャンド ルづくり」「過冷却」等の実験	講義	10	37	47	春日部東高等学校 化学部
7月20日(木)	9:30～12:00	健康的なダイエット法や女性特有のが んの現状と「備え」について学ぶ	講義	0	11	11	明治安田生命保険相互会社 川畑節子
8月30日(水)	10:00～12:00	人生をずっと元気に過ごすための秘 訣やポイント、老化について学ぶ	講義	2	14	16	明治安田生命保険相互会社 川畑節子
5回	13時間30分			15	82	97	
企画運営上 の 工 夫	①地元婦人会と共催で行うことにより、地域内の連携を図る。②普段、歩きなれていない方でも参加し やすいように、歩行時間が1時間程度となるように、コース設定をした。③楽しみながら実験や工作をするこ とにより、理科や勉強への興味関心を高めてもらう。④2講座設けたが、興味関心に合わせ聴講できるよ う途中入室、退室自由とした。⑤男女問わず関心のある内容を企画し、集客をねらった。						
成 果 参 加 者 の 声 な ど	①「講師が優しく親切に指導してくれた」と盛況であった。②「立派な彫刻等の 文化財を近くで観察できてよかった」との声をいただき、地域住民が、郷土史に 興味関心を持つ機会を与えることができた。③「知らないことがたくさんあった が、科学(化学)に興味を持つことができた」などの声をいただき、高校生と小学 生、異なる年代層の交流も深めることができた。④・⑤「講師の方の説明が分 かりやすかった」との感想が寄せられた。⑤「資料が豊富で説明がわかりやす かった」など、盛況であった。						 ① ③
課題と展望	①講師の先生と打ち合わせをして、作成物の難易度も含め内容を十分に検討し計画した。②魅力ある散 策コースを開拓し、今後も継続して事業を実施できるようにする。③子ども達が化学の楽しさに触れる機 会の創出だけでなく、地域の高校生が講師として、教える側に立ち、日頃の勉強の成果を発揮できる場 の創出も兼ねていることから、今後も継続して事業実施の協力をお願いしたい。④・⑤健康に関する講座 は、需要が高いと考えることから今後も関係団体と協力し、事業を実施していきたい。						

事業名 テーマ	こうまつ寺小屋 ⑥星空観察教室 ⑦自筆証書遺言の書き方講座 ⑧シニア世代のスマホ講座 ⑨わたしと家族の「そうぞく」講座		対 象	⑥小学生とその保護者 ⑦成人一般 ⑧幸松地区在住の65歳以上の方 ⑨成人一般		定 員	⑥15組(30名) ⑦20名 ⑧20名 ⑨30名
ね ら い	市民生活に身近な題材を取り上げ、地域住民の教養を高める。						
協力機関 及び団体	⑥生涯学習市民推進員 ⑦幸松地区生涯学習市民推進員 ⑧春日部市行政デジタル改革課 ⑨明治安田生命保険相互会社		特 色 位置づけ	重点事業 ⑥⑦生涯学習市 民推進員共催事 業		SDGs の目 標No	4
会 場	⑥⑦⑧⑨幸松地区公民館 講堂		教 材 資 料 等	⑥レジュメ・ 星座早見表 ⑦レジュメ ⑧レジュメ ⑨レジュメ			
実施まで の 経 過	4月下旬 ⑥⑦企画・立案 5月中旬 ⑥⑦講師依頼 10月中旬 ⑧企画・立案 10月下旬 ⑧講師依頼 11月17日(金) ⑨企画立案 12月27日(水) ⑨講師依頼		PR方法	公民館だよりに掲載 安心安全情報メールにて周知			
			受付方法	⑥10月18(水)9:00～窓口・電話申込み ⑦10月21(土)9:00～窓口・電話申込み ⑧12月13(水)9:00～窓口・電話申込み ⑨2月6日(火)9:00～窓口・電話申込み			
月日(曜)	時 間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名
回 数	総時間数			男 計	女 計	合計	
11月18日(土)	17:30～19:30	星座早見表の作成 星座・流星群の説明 野外での展望会	講義	15	18	33	草加天文愛好会 三田明
11月22日(水)	13:00～15:00	自筆証書遺言書の説明 自筆証書遺言書の作成等	講義 実習	3	6	9	生涯学習市民推進員 (行政書士) 赤堀良孝
1月25日(木)	①13:30～14:45 ②15:30～16:45	スマートフォンを使い、イン ターネットや機器の操作方 法を学ぶ	講義	①3 ②3	①7 ②7	20	行政デジタル改革課 職員
3月6日(水)	13:30～ 15:00	ライフ&エンディングノートを作成する	講義 実習	7	9	16	明治安田生命保険相互会社 竹野 通子
4回	8時間			31	47	78	
企画運営上 の 工 夫	⑥本格的な天体望遠鏡等を使った夜空の観察を行うことで、子どもたちに天体への興味・関心を持ってもらうきっかけとした。 ⑦行政書士であり、幸松地区の生涯学習市民推進員でもある赤堀氏と共同で企画した。 ⑧スマートフォンをお持ちの65歳以上の方を対象として、インターネットなどの知識の習得してこれからのデジタル社会の一助となる講座とした。スマホの操作を通して官民や参加者相互のコミュニケーションが促進される企画とした。⑨主に高齢層が関心を持ちそうな内容であるが、対象を制限せずにより多くの方が参加できるようにした。						
成 果 参加者の 声 など	⑥「天候に恵まれ、天体望遠鏡で観測できてたのがとてもよかった」、「座学・観測ともに充実した時間を過ごせた」など、児童・保護者ともにおおむね満足の意見をいただいた。 ⑦「遺言書の基本的な書き方が分かって安心した」など、盛況であった。 ⑧「わからないことを聞いたのが一番良かった」「資料が大変良かった」「また開催してもらいたい」など満足の意見をいただいた。⑨「配布された資料が分かりやすいものであった」「終活について、講義を通して理解が深まった」など盛況であった。			 ⑥			
課題と展望	⑥本年は天候に恵まれたおかげで、参加者が満足する講座を提供できた。悪天候で観測ができない場合でも、満足する講座が展開できるよう、講師陣と連携し企画内容を検討した上で次回開催に備える。 ⑦「内容が複雑なため2時間では足りなかった」、「個々の事例に合わせて遺言書の書き方を解説してほしい」との意見もあったことから、今後は難易度のバランスのとれた講座が展開できるようにする。 ⑧ニーズが高い事業だが、指導者の人数が少ないため少人数制の開催としている。可能であれば、指導者を増員し、講座の回数や定員を増加させることを検討していく。 ⑨参加者それぞれに事情が異なることから、丁寧な事業運営を心掛ける。 事業全体としては、各講座のアンケートから、開催希望時間帯や、開催する季節、対象者等をよく分析することで、当日の参加率を高められるよう、開催日や内容を決定していきたい。						



⑥

事業名 テーマ	公民館利用団体共催 オープン講座 肩こり解消ヨガ		対象	成人男女		定員	10名	
ねらい	利用団体と公民館で共催の事業・展示会を実施することを通じて各団体の活動を広め、定期利用団体の会員増加と地域の活性化に寄与する。							
協力機関 及び団体			特色 位置づけ	年間を通じて利用 団体と共同で講座 や展示会を開催		SDGs の目 標No	4	
会場	幸松地区公民館 講堂		教材 資料等					
実施までの経過	1月11日(水) 講師依頼 1月11日(水) 打合せ 4月1日(土) 公民館だより掲載 4月12日(水) 申込み開始 4月27日(木) 実施		PR方法	公民館だより4月号掲載				
			受付方法	4月12日(水)9:00～幸松地区公民館窓口もしくは電話にて申込み(先着順)				
月日(曜)	時間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名	
回数	総時間数			男	女	合計		
		計	計					
4月27日(木)	10:00～11:00	肩こり解消ヨガ 	実技	1	8	9	2021年RYT200 全米ヨガアライアンス 取得 Eri(曾根恵理子)	
1回	1時間			1	8	9		
企画運営上の工夫	・少人数で行うので、一人ひとりに対して丁寧に指導することが出来る。 ・身近なものを使用することで、講座後も一人で実施することが出来る。							
成果 参加者の声など	申し込み開始後、数十分で定員10名に達し、キャンセル待ちが発生する状況であった。参加者からは、「少人数で分かりやすかったです」、「無理なく楽しくできました」、「またやってみたいです」等の声をいただき、大変盛況であった。							
課題と展望	きめ細かい指導が好評であったので、今後も少人数開催の有効性を認識した上で講座の内容等を計画していく。参加者の9割が女性であったため、男性の参加者も増えていくように、講座の内容や周知の仕方等を工夫する。							

事業名 テーマ	幸松地区体育振興会 ①ボッチャ大会 ②第15回グラウンドゴルフ大会 ③第22回スマイルボウリング大会		対 象	①地区在住者(小学3年生以上) ②地区内在住の成人 ③地区在住者(小学4年生以上)		定員	①10チーム(1チーム3名) ②16チーム(1チーム3名) ③14チーム(1チーム5名)
ね ら い	地区内住民が気軽に参加でき、高齢者をはじめあらゆる年代層で楽しめるスポーツ大会を開催することにより、住民の健康と体力の向上及び親睦をはかり健全な地域の発展をめざす。						
協力機関 及び団体	幸松地区体育振興会		特 色 位置づけ			SDGs の目 標No	3・4
会 場	①幸松地区公民館 講堂 ②牛島小学校 校庭 ③幸松地区公民館 体育室		教 材 資 料 等				
実施ま での経 過	4月15日(土) 第1回体育振興会理事会 5月20日(土) 体育振興会総会		PR方法	公民館だよりに掲載			
	5月27日(土) 第2回体育振興会理事会 8月6日(日) ボッチャ大会 11月19日(日) 第15回グラウンドゴルフ大会 12月10日(日) 第22回スマイルボウリング大会		受付方法	①6月16日(金)9:00～直接幸松地区公民館窓口へ申込み ②10月14日(土)～11月5日(日)に直接幸松地区公民館窓口へ申込み ③11月8日(水)～11月26日(日)に直接幸松地区公民館窓口へ申込み			
月日(曜)	時 間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名
回 数	総時間数			男 計	女 計	合計	
①8月6日(日)	9:00～12:00	ボッチャ大会	競技	2	13	15	幸松地区スポーツ推進委員
②11月19日(日)	9:00～12:00	第15回グラウンドゴルフ大会	競技	16	31	47	幸松地区スポーツ推進委員
③12月10日(日)	9:00～12:00	第22回スマイルボウリング大会	競技	5	25	30	幸松地区スポーツ推進委員
3回	9時間			23	69	92	
企画運営上 の工夫	・参加者について、会場で密にならないように定員を設定して開催をするよう配慮した。 ・表彰は、成績上位者だけでなく飛び賞などを設けて参加者が少しでも楽しめるようにした。						
成 果 参 加 者 の 声 な ど	①成績によって賞品を出したことで、賞品を獲得した方は大変喜んでいいる姿が見受けられた。 ②・③成績により賞品がもらえてうれしかったとの声や参加者同士の交流も図れ、楽しい時間が過ごせたとの声が多く聞かれ大変好評であった。						
課題と展望	いずれの大会も参加してくれる方が常連さんばかりなので、新しい人に参加してもらえ るような工夫をしていきたい。						

事業名 テーマ	幼児家庭教育学級 ①英語で運動会！～Let's play together! ②わくわく！リトミック	対象	未就学児とその保護者	定員	①15組 ②10組		
ねらい	育児中の親子が集い、幼児期の発育を正しく理解し、家庭における教育の在り方について学ぶ。						
協力機関 及び団体		特色 位置づけ	子育て支援事業	SDGsの 目標	4		
会場	幸松地区公民館 講堂	教材 資料等	なし				
実施までの経過	4月21日(金) ①講師依頼 5月中旬～7月上旬 ①講師打合せ 8月1日(火) ①公民館だより掲載 8月3日(木) ①チラシ配布 8月16日(水) ①募集開始 9月13日(水) ①実施	PR方法	①公民館だより8月号掲載、チラシ配布 ②公民館だより2月号掲載、子育て情報メール配信				
	12月上旬 ②講師依頼 12月27日(水) ②講師打ち合わせ 2月1日(木) ②公民館だより掲載 2月2日(金) ②募集開始 2月7日(水) ②子育て情報メール配信 3月2日(土) ②実施	受付方法	①8月16日(水)9:00～幸松地区公民館に直接または電話で申込み(先着順) ②2月2日(金)9:00～幸松地区公民館に直接または電話で申込み(先着順)				
月日(曜)	時間	内 容	方法	参加者		講師・助言者の職名 氏 名	
回数	総時間数			男 計	女 計		合計
9月13日(水)	10:00～12:00	英語の歌や、音楽に合わせて体を動かす。	実技	12	8	20	鳩間 美和
3月2日(土)	10:00～11:30	リトミック (歌、手遊び、工作など)	実技	3	15	18	リトミック研究 センター 栗岡 一矛 ピアノ講師 西村 範子
2回	3時間30分			15	23	38	
企画運営上の工夫	・子育て中の仲間が集い、「交流と情報交換」の場を提供できるようにする。 ・未就学児童の行動特性に合わせ、安全対策が徹底された会場づくりをする。(ステージ上への階段の撤去等)						
成果 参加者の声など	①参加者からは「日常で、英語を聞かせたり、簡単な単語で言葉かけすることの大切さを学んだ」との意見をいただいた。 ②参加者から「平日は仕事なので土曜日に開催していただけたのが、ありがたい」との意見をいただき、昨年度の平日開催よりも集客が好調であった。						
課題と展望	今後も、「育児中の親子が集い交流を深め、家庭における教育について学ぶ」という幼児家庭教育学級の事業目標である「子育て世帯が集まり交流する」を主眼とし、充実した講座の内容を計画して実行していきたい。						

事業名 テーマ	第69回幸松地区体育祭		対 象	幸松地区内住民		定 員	定めず	
ね ら い	地域住民の体育・レクリエーションの祭典で、地区内住民が主体となって開催し、健康の増進、体力の向上及び親睦を図り、健全な地域の発展をめざす。							
協力機関 及び団体	幸松地区自治会連合会 幸松地区体育振興会		特 色 位置づけ	重点事業		SDGs の目 標No	3・11・17	
会 場	東中学校 校庭		教 材 資 料 等	競技用具一式				
実施までの経過	5月21日(日) 春日部市民体育祭実行委員会 6月10日(土) 体育祭第1回実行委員会 7月22日(土) 体育祭実行委員会役員会 9月16日(土) 体育祭第2回実行委員会 10月8日(日) 開催 10月14日(土) 体育祭第3回実行委員会(反省会)		PR方法	地区内幼稚園、小・中学校、高校、特別支援学校へのポスター掲示依頼 各自治会にポスター掲示依頼 体育祭プログラムの各戸配布				
			受付方法	自由参加種目:申込不要 地区対抗種目:8月31日(木)までに地区内で選出 当日受付種目:当日受付				
月日(曜)	時 間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名	
回 数	総時間数			男	女	合計		
			計	計				
10月8日(日)	9:00～15:30	・地区対抗種目 5競技 ・自由参加種目 12競技 ・団体種目 1競技	競技	1380	920	2300		
1回	6時間30分			1380	920	2300		
企画運営上の工夫	・実行委員会を組織して大会運営に当たった。 ・多世代交流や大会参加者増を目的とした「健康ふれあい奨励費」を活用し財源確保に努めた。 ・体育祭会場である東中学校の吹奏楽部員や生徒のボランティアに協力してもらい、学校と地域の連携を図った。							
成 果 参加者の声 など	コロナ感染症と台風の影響で、4年間体育祭ができなくて5年ぶりに開催したが、大きなトラブルなどなく大盛況のもと開催できた。また、官・民・学が連携して地域コミュニティの醸成が図れた。							
課題と展望	体育祭がマンネリ化しないように新しい競技を考えるなど様々な工夫を検討していく。また、体育祭の各係ごとの反省点を活かし、来年度以降も地域の一大イベントとして開催していきたい。							

事業名 テーマ	かすかべ遊学フェスティバル参加事業 春日部市民の日記念事業 第35回幸松ふれあい文化祭		対象	公民館利用者及び幸松地区に在住・在勤・在学する方で、文化祭の趣旨にご賛同いただける方		定員	定めず
ねらい	地域住民の文化・スポーツ活動の学習成果の発表の場及び地域住民のふれあいの場とする。						
協力機関及び団体	主管：第35回幸松ふれあい文化祭実行委員会 協賛：幸松地区自治会連合会		特色 位置づけ	重点事業		SDGsの目標No	4・11 12・17
会場	幸松地区公民館 全館		教材 資料等	プログラム			
実施までの経過	6月1日(木) 公民館だより掲載 7月6日(木) 参加団体申込み受付開始 7月30日(日) 参加団体申込み〆切 8月1日(火) 公民館だより掲載 8月17日(木) ボランティア募集開始 9月2日(土) 第1回実行委員会 10月1日(日) 公民館だより掲載 10月19日(木) ボランティア募集〆切 10月21日(土) 第2回実行委員会 11月8～10日 文化祭準備 11月11～12日 実施		PR方法	公民館だより「ふじの里」6・8・10月号に掲載 窓口にてプログラム配布			
			受付方法	7月6日(木)～7月30日(日)までに幸松地区公民館・幸松第二公民館の窓口で配布する申込用紙を提出			
月日(曜)	時間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名
回数	総時間数			男 計	女 計	合計	
11月11日(土)	10:00～16:00	展示・体験・ステージ発表 		762	346	1108	
11月12日(日)	10:00～15:00			762	346	1108	
1回	11時間			762	346	1108	
企画運営上の工夫	・子どもが主体となる企画、大人が主体となる企画をバランスよく配置し、世代間の交流が図られる空間作りを目指す。 ・子どもたちの興味を引く催し物を企画し、発表の場も充実させることで、子どものいる家族も視野に入れた多くの来館者を獲得する。 ・周知活動に力を入れ、チラシやポスターに加え、ソーシャルメディア(ブログ等)も活用した広報活動を実施し、より多くの来館者を獲得できるようにする。						
成果参加者の声など	3年ぶりの開催である昨年度を上回る盛況ぶりでコロナ以前の活気を取り戻せたように見受けられる。「地元中学生による開会演奏のレベルの高さに驚いた」、「児童生徒の展示作品のレベルが高い」等の声をいただき、子どもたちの活躍が目立った。						
課題と展望	昨年に引き続き子どもたちの発表の場を充実させたことで、保護者を含む多くの来館者に来てもらうことが出来た。ステージ発表の鑑賞者が多い時間と少ない時間の差が極端であったため、舞台のタイムスケジュールの計画や当日の館内周知を工夫することで、鑑賞者のバラツキが出ないようにする。 また、参加団体が実行委員会の運営等に今まで以上に積極的に参加する仕組みをつくり、地域住民の方が自ら参加し、造り上げることを楽しめる文化祭をつくっていきたい。						

事業名 テーマ	公民館まつり		対象	定めず		定員	400名
ねらい	縁日やお祭りを意識して、昔のあそびや軽スポーツコーナー、サイエンス教室、農産物販売など様々な催しを開催して、地域住民を含めて広く世代間での交流やコミュニティの醸成を図る。						
協力機関 及び団体	幸松婦人会・ふれあい大学30期・春日部東高等学校化学部・明治安田生命保険相互会社・春日部農産物直売所・東中学生ボランティア・幸松地区スポーツ推進委員		特色 位置づけ			SDGs の目 標No	4・12・17
会場	幸松地区公民館 体育室		教材 資料等				
実施までの経過	4月1日(土) 企画・立案・指導者折衝 10月1日(日) 公民館だより掲載 10月中旬 指導者、運営ボランティア協力依頼通知発送 10月12日(木) 各小・中学校へポスター及びチラシ配布 11月2日(木) 地区内幼稚園・保育園へチラシ配布 11月11日(土) 前日準備 11月12日(日) 開催		PR方法	・公民館だより10月号掲載 ・幸松地区内各小・中学校及び幼稚園・保育園へチラシ及びポスター配布			
			受付方法	事前受付なしで、当日会場へ			
月日(曜)	時間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名
回数	総時間数			男 計	女 計	合計	
11月12日(日)	10:00～15:00	お手玉・けん玉・ベーゴマ、アートバルーンづくり、射的コーナー、ヨーヨー釣りサイエンスコーナー、缶バッチづくり、軽スポーツコーナー、うまい棒すくい、新鮮野菜の販売、野菜摂取量チェックなど	体験	140	354	494	春日部東高等学校化学部 ふれあい大学30期 幸松婦人会 明治安田生命保険相互会社 春日部農産物直売所 東中学生ボランティア 幸松地区スポーツ推進委員
1回	5時間			140	354	494	
企画運営上の工夫	・お手玉やけん玉、ベーゴマなどの昔のあそびやアートバルーンや缶バッチづくり、割りばし鉄砲で射的、縁日でよくあるヨーヨー釣り、軽スポーツとしてドッチビーのストラックアウトなど子どもから大人までが楽しめる内容の事業を展開する。また、幸松地区ふれあい文化祭との同時開催を行うことで双方の事業の参加者の参加を促す工夫をした。 ・今回は、地区内の東中学校にボランティアをお願いして当日の運営を一緒に体験してもらうことで地域の人たちとの交流を図る機会の提供を行った。						
成果参加者の声など	子どもから大人まで幅広い年代層の人たちが多く訪れ、思い思いに各コーナーをめぐり、家族みんなで地域の方や、春日部市に活動の拠点を置く企業、東高校や東中の生徒ボランティアと交流する姿が見られた。また、今回は春日部農産物直売所に協力をしてもらい、新鮮野菜の販売を行い、好評だったのと缶バッチづくりを行ったところたくさんの子供たちが一生懸命作品を作っている姿が見受けられて会場全体が非常に盛り上がりみんなが喜んでくれた。						
課題と展望	今回は、東中学校生徒ボランティアの協力もあり、会場の運営もスムーズに進めることができたので、来年度以降もボランティアの協力をお願いしてさらに充実した内容の事業にしたい。 また、各コーナーによっては、参加してくれる人数を把握することが難しいので、今年の経験を活かして、それぞれ必要な材料などを検討して開催をすることが必要である。						



事業名 テーマ	こうまつ音楽祭	対象	一般	定員	100名		
ねらい	音楽を通して住民の交流の場とする。また、子どもから大人まで音楽に気軽に触れられる機会の提供をする。						
協力機関 及び団体	Dream Swing Kingdom(ドリームスイング キングダム)	特色 位置づけ		SDGs の目 標No	4		
会場	幸松地区公民館 講堂	教材 資料等	パンフレット				
実施までの経過	6月28日(水) 企画・立案・出演折衝 7月8日(土) 演奏者打合せ 8月1日(火) 公民館だより掲載 8月31日(木) チケット配布開始 9月30日(土) AMリハーサル 13:00～本番	PR方法	公民館だより8月号掲載				
		受付方法	8月31日(木)8:30～幸松地区公民館窓口にてチケット配布(先着順)				
月日(曜)	時間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名
回数	総時間数			男 計	女 計	合計	
9月30日(土)	午前中リハーサル 13:00開場 13:00～13:40 演奏開始 16:00終了	JAZZコンサート 	演奏	31	55	86	Dream Swing Kingdom (ドリームスイングキングダム)
1回	1時間40分			31	55	86	
企画運営上の工夫	・全ての年代で楽しめる内容にする。日ごろコンサートに行く機会がない子どものいるお父さんお母さんからお年よりまで音楽を楽しんでいただけるよう工夫する。 ・会場の混雑を避けるためにチケット制にした。 ・演奏、鑑賞、主催(公民館)の3者が一体となって、コンサートを盛り上げられるような会場づくり(鑑賞者が一緒になって歌う等)を目指す。						
成果 参加者の声など	配布予定チケット100枚は、開催前に完配となり、当日入場者も86名と目標の来客数が達成された。また、アンケートの集計結果は回答者の95%が「満足だった」の回答で大変盛況であったと見受けられる。参加者からは、「生の演奏を大音量で聞けてよかった」、「バンドリーダーのMCがとてもよく、コンサート全体がもりあがっていた」等の感想をいただき、生の演奏に満足していただくだけでなく、鑑賞者も一体となった会場作りが実施できた。						
課題と展望	客席のレイアウトや会場の換気について意見があった。小さな意見ではあるが、来年開催予定の音楽祭に反映していきたい。また、「来年も同じグループで開催してほしい」「色々なジャンルをジョイントしての演奏会を期待する」等の声もあった。3年ぶりに開催された本会のJAZZをベースに地元の中・高校生吹奏楽部等とジョイントした形で次の音楽祭を企画していきたい。						

事業名 テーマ	小・中学生期家庭教育学級		対象	小・中学生の保護者及び家庭教育に関心のある人		定員	100名
ねらい	小・中学生期における家庭教育の重要性を認識するとともに、親として望ましい在り方を理解し、明るく豊かな家庭づくりを目指す。						
協力機関及び団体	共催：東中学校・同PTA、幸松小学校・同PTA、牛島小学校・同PTA、小淵小学校・同PTA 更生保護女性会（託児）		特色 位置づけ	重点事業		SDGs の目標No	4
会場	幸松地区公民館 講堂		教材 資料等	レジュメ			
実施までの経過	4月1日(金) 企画・立案等 7月8日(金) 第1回目打ち合わせ 8月23日(水) 講師折衝 9月7日(木) 第2回目打ち合わせ 10月1日(日) 公民館だより掲載 10月11日(水) 講師依頼通知発送 10月12日(木) 各学校へ申込書、ポスター配布 12月5日(火) 前日準備 12月6日(水) 開催		PR方法	・公民館だより10月号掲載 ・幸松地区内各小・中学校へ参加申込書兼チラシ及びポスター配布			
			受付方法	10月14日(土)～11月24日(金)に幸松地区公民館窓口または電話で申込み			
月日(曜)	時間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名
回数	総時間数			男 計	女 計	合計	
12月6日(水)	10:00～12:00	ライフコースアプローチから子どもの食育を考える～今しかできない食生活の基礎づくり～	講演	7	37	44	女子栄養大学 准教授 中西 明美
1回	2時間			7	37	44	
企画運営上の工夫	・地区内の小・中学校の校長及びPTAの役員と公民館で、小・中学生期における家庭教育に共通した課題を検討し、小学生児童を持つ保護者、中学生児童を持つ保護者両者が満足するような講演となるようにテーマを決定する。 ・小さなお子さんを持つ保護者にも参加しやすいように、託児サービスを設ける。						
成果参加者の声など	「食育について色々知れてよかった」、「自分の食習慣が子供に影響を与えることが十分に理解することができた」等、講演内容について、参加者ほぼ全員が勉強になったようで皆さんが講師の話を真剣に聴講している姿が見られた。事業終了後のアンケートの結果でもほぼ全員が「満足した」との回答であった。						
課題と展望	来年度は、毎年12月の開催の事業であるため、インフルエンザなどの感染症の流行時期と重なっていることも鑑み、アンケートの意見でもあった開催時期について打ち合わせを行う際に検討課題の一つとして考慮していきたい。また、内容についてもその時のニーズに沿ったものにするなど工夫をしたい。						

事業名 テーマ	幸松地区防災のつどい		対象	幸松地区在住者		定員	一般20名 地区60名
ねらい	突然の水害や地震など、いつ自然災害が起きても自分や家族・地域を守ることができるように、日頃から地域の実情を知っておくことの重要性を学ぶ。						
協力機関 及び団体	春日部市危機管理防災課 春日部市消防本部警防課 牛島地区自主防災会		特色 位置づけ			SDGs の目 標No	4・13
会場	幸松地区公民館		教材 資料等	春日部市災害対策のすすめ の冊子			
実施までの経過	6月中旬 危機管理防災課との打合せ 8月下旬 牛島地区自主防災会と打合せ 9月上旬 自衛消防訓練通知提出 11月17日(金) 危機管理防災課との打合せ 11月19日(日) 牛島地区自主防災会と打合せ 12月1日(金) 申込み開始 12月24日(日) 実施		PR方法	公民館だより12月号に掲載			
			受付方法	12月1日(金)より、幸松地区公民館 へ直接また電話にて申込み			
月日(曜)	時間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名
回 数	総時間数			男	女	合計	
				計	計		
12月24日(日)	10:00～12:00	防災訓練(地震体験(ゆらりん)・AED体験・簡易ベッド組立て訓練・避難所誘導訓練 など)	訓練 実習	40	24	64	消防本部警防課職員 危機管理防災課職員 牛島地区自主防災会 公民館職員
1回	2時間			40	24	64	
企画運営上の工夫	- 幸松地区において、各自治会等では自主防災組織を中心とした防災訓練は行っていたが、地区全体では実施していなかったため今回、地区内住民を対象にして実施することで、地区内住民に防災に関する知識等を学ぶ機会を提供する。 - 幸松地区公民館が災害時等で避難所になることから、簡易ベッドや仮設トイレ、間仕切り、テントなどを実際に体験してもらう。						
成果 参加者の 声 など	アンケート結果では、「また参加したい」「色々な体験ができてよかった」「ゆらりんやAED体験など勉強になった」等の声が多く盛況であった。						
課題と展望	2回目の実施の為、スムーズに進行できた。次年度以降について、今回の経験を活かしてより充実した内容にするとともに地域住民等の要望に沿った事業の実施を検討していく。						

事業名 テーマ	利用者のつどい		対 象	公民館利用団体		定員	各団体 2名以下
ね ら い	公民館利用者と公民館の連絡及び利用者相互の交流の場とする。						
協力機関 及び団体			特 色 位置づけ			SDGs の目 標No	4
会 場	幸松地区公民館 講堂		教 材 資 料 等	春日部市幸松地区・幸松第二 公民館利用案内			
実施まで の 経 過	12月1日(金) 公民館だより掲載 12月1日(金) 窓口にて案内配布開始 12月28日(木) 自衛消防訓練通知提出 1月18日(木) 実施		PR方法	公民館だより掲載 窓口にて公民館利用団体に申込 み書を配布			
			受付方法	12月1日(金)～1月11日(木)に公 民館窓口にて受付(各団体2名ま で)			
月日(曜)	時 間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名
回 数	総時間数			男 計	女 計	合計	
1月18日(木)	10:00～12:00	公民館利用に関すること サークル・団体運営に関すること 公共予約システムの利用説明 人権研修(DVD鑑賞) 避難訓練	説明 説明 説明 鑑賞 訓練	6	21	27	公民館職員
1回	2時間			6	21	27	
企画運営上 の 工 夫	・公民館利用団体の代表者に出席してもらい、サークル活動内容などを把握するとともに、公民館利用ルールの再確認及び公民館運営に関する情報伝達の場とし、地区公民館と第二公民館合同開催とする。 ・人権問題について、多くの利用者に再認識してもらうための人権研修(ビデオ鑑賞)を併せて行う。 ・公民館利用中の火災発生時に迅速かつ冷静な対応ができるよう併せて避難訓練を実施する。						
成 果 参 加 者 の 声 な ど	公民館利用に関する内容の再認識の場となった。 個人のスマホなどを利用して施設予約方法を学習してもらった。 避難訓練では、速やかな避難ができるなど防災意識の向上を図ることができた。						
課題と展望	日頃の公民館活動における疑問点や意見などを伺うことができる良い機会であるため、今後も公民館利用者にとって有意義な集いになるよう心掛けていきたい。						

事業名 テーマ	人権問題研修会	対象	公民館利用者	定員	各団体 2名以下		
ねらい	身近にある、様々な人権問題を正しく理解し、差別に対してどう行動すればよいか考え、学ぶ。						
協力機関 及び団体	社会教育課	特色 位置づけ		SDGs の目 標No	10		
会場	幸松地区公民館 講堂	教材 資料等	人権啓発DVD				
実施までの経過	12月1日(金) 公民館だより掲載 募集開始 1月18日(木) 実施	PR方法	公民館だより12月号掲載 利用団体へ開催通知				
		受付方法	1月11日(木)までに幸松地区公民館、幸松第二公民館の窓口にて申込み				
月日(曜)	時間	内容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名
回数	総時間数			男 計	女 計	合計	
1月18日(木)	11:20～11:45	人権啓発DVD 「お互いの本心が伝わるとき～障害者～」	鑑賞	6	21	27	
1回	25分			6	21	27	
企画運営上の工夫	「公民館利用者」のつどいと同時開催にすることで、より多くの方に人権に関する問題を意識してもらい、自分で考えるきっかけづくりにした。						
成果 参加者の声など	アンケートからは「思いやりが大切」「健常者、障がい者にかかわらず相手の立場にたち、対応していきたい」との感想をいただいた。さらにアンケート回答者の多くの方が今後も人権に関するイベントを行なうべきと回答している。						
課題と展望	今後も人権問題について正しい知識を持ってもらえるための研修会を行なう。						

事業名 テーマ	サークル体験会		対 象	一般		定員	—
ね ら い	新たに活動を始めたいと考える人にとって参加する機会を設ける。また、会員募集を行うサークルの広報を行うチャンスとし、公民館活動の活性化を図る。						
協力機関 及び団体	体験会参加サークル		特 色 位置づけ			SDGs の目 標No.	4
会 場	幸松地区公民館・幸松第二公民館		教 材 資 料 等				
実施までの経過	10月1日(日) 公民館だより掲載 10月26日(木) 参加団体募集開始 11月24日(金) 参加団体募集〆切 2月1日(木) 公民館だより掲載 参加者募集開始 3月1日(金) サークルの見学・体験開始		PR方法	公民館だより2月号掲載			
			受付方法	2月1日(木)より幸松地区公民館・第二公民館へ直接または電話で申込み			
月日(曜)	時 間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名
回 数	総時間数			男 計	女 計	合計	
3月1日(金) ～ 3月31日(日)		サークル活動の見学・体験	実習	8	16	24	各団体
				8	16	24	
企画運営上の工夫	日ごろ公民館を利用しているサークルの活動に興味関心を持っている方に、参加するきっかけ作りを行う。また、体験会を行うことで利用サークルの広報を行う。公民館だよりに掲載することで参加を促すとともに、公民館サークルの紹介とする。						
成果参加者の声など	体験参加者から、「体験した内容がとても興味あるもので、サークルに加入して深く、学んでみたい」との声を多く頂いた。また体験会参加団体から「今後は、公民館と一緒に、なって講座や教室を是非開催したい」・「多くの人に参加してもらう為、スタンプラリー形式をとってはどうか」等の運営に対しての意見も含め声を多く頂いた。						
課題と展望	参加者の声にあったように、会員参加募集をしている団体は公民館での講座や教室の開催意識が高い。このような団体に講座教室の開設支援を積極的に実施することで公民館活動の活性化を図りたい。また、参加団体からの運営に対しての貴重な意見も反映させる形で次年度の体験会を計画していきたい。						

事業名 テーマ	公民館だより「ふじの里」発行		対 象	幸松地区全戸	定 員	—
ね ら い	幸松地区内住民への公民館事業及び地域行事の情報提供を行う。					
協力機関 及び団体			特 色 位置づけ		SDGs の目 標No	4・11
会 場			教 材 資 料 等			
実施ま での 経 過	発行前月初め 編集会議 発行前月上旬 作成 ～中旬 発行前月下旬 印刷・梱包 偶数月1日 発行	PR方法				
		受付方法	掲載依頼記事は、前月の10日まで			
月日(曜)	時 間	内 容	方法	参加者		講師・助言者の職名 氏 名
回 数	総時間数			男 計	女 計	
年6回偶数月発行		公民館主催事業等の 情報などを提供 約8,700部/回を配布				
6回						
企画運営上 の 工 夫	公民館事業については見やすく、興味をもたれるような紙面づくりを心掛けた。 利用サークルの会員募集や、他の公民館・他課の情報も出来る限り掲載するようにした。 掲載内容が多い月はA3の用紙サイズとすることで、見やすく情報提供することを心掛けた。					
成 果 参 加 者 の 声 など	主催事業の参加者にアンケートをとると、事業を知ったきっかけは公民館だよりという回答が大半を占める。公民館だよりの発行は、地域住民にとって、公民館事業を知る主な手段となっている。					
課題と展望	事業実施報告や参加者の声なども掲載する紙面や見やすい紙面作りを考えたい。					



幸松地区 19

事業名 テーマ	幸松第二公民館利用者作品展示		対 象	幸松第二公民館 利用サークル 来館者		定 員	—	
ね ら い	公民館利用サークル会員に発表の場を提供するため、ロビーを展示スペースとして活用し、地域住民に鑑賞の場を設け、季節を感じてもらう。							
協力機関 及び団体	幸松第二公民館利用サークル		特 色 位置づけ				SDGs の目 標No	4
会 場	幸松第二公民館ロビー		教 材 資 料 等					
実施まで の 経 過	4月～3月 展示作品の申込み(随時) 季節の作品を展示 (新しい作品が出来次第展示)		PR方法	公民館だより、公民館ブログ				
			受付方法	窓口にてロビー展示申込み(随時) 自由観覧				
月日(曜)	時 間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名	
回 数	総時間数			男 計	女 計	合計		
4月～3月		季節に因んだ作品及び サークル活動作品の展示 	展示 観覧				折紙 金曜会 松寿会 	
12回								
企画運営上 の 工 夫	ロビーに展示スペースを設け、より多くの作品を飾り、来館者の目に触れてもらうようにした。レイアウトも作品が引き立つように工夫して展示した。 周知については、公民館利用団体などに直接声掛け、幸松第二公民館ブログへの掲載により、広く作品を紹介するようにした。							
成 果 参 加 者 の 声 な ど	季節を感じる作品を展示することにより、来館者に興味を持って頂き、コミュニケーションがとれる場となった。また、作品を披露できたことで出展者からとても喜ばれ、次回作の意欲につながった。							
課題と展望	展示スペースが限られており、作品数との兼ね合いが難しい時もあるため、より良い展示方法を考えていきたい。展示内容に変化をつけ、広く興味をもってもらえる作品展示の企画に努めていきたい。							

事業名 テーマ	マハロウクレレの新春コンサート		対 象	成人一般		定 員	80名	
ね ら い	誰もが楽しめる楽曲による音楽鑑賞会を開催し、芸術文化に親しむ機会を提供する。							
協力機関 及び団体	マハロ・ウクレレ		特 色 位置づけ			SDGs の目 標No	4	
会 場	幸松第二公民館 大会議室		教 材 資 料 等					
実施までの 経 過	8月 団体へ依頼 9月 内容打合せ 12月1日(金) 公民館だより掲載 12月5日(火) 申込み開始 1月6日(土) リハーサル 1月20日(土) 実施		PR方法	公民館だより12月号掲載 ポスター掲示				
			受付方法	12月5日(火)から幸松第二公民館 窓口または電話にて申込み				
月日(曜)	時 間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名	
回 数	総時間数			男	女	合計		
				計	計			
1月20日(土)	10:30～12:00	ウクレレとフラダンスのコンサート	実習	13	58	71	板垣 節子 他 16名	
1回	1時間30分			13	58	71		
企画運営上 の 工 夫	ウクレレの演奏だけでなくフラダンスを鑑賞する時間を設けた。また全員で昭和歌謡を歌い、参加者(地域住民)の連帯感を高めるような環境を提供するよう心掛けた。							
成 果 参 加 者 の 声 な ど	当日は大変盛況で、「久しぶりに大勢で大きな声で歌えた」、「若返った気持ちになれた」等の声をいただいた。 コンサートの知ったきっかけは公民館だよりからが58%、知人からが33%であった。知人からの声かけが全体の3割強を占めることから地域コミュニティが良好に形成されていることが見受けられた。							
課題と展望	自動車利用を希望する方も多く、駐車場の確保が課題となった。また、参加者の年齢構成において、70代が55%・80代が36%と70代以上の参加割合が91%で、高齢者の参加が目立った。今後は、地域住民の世代を超えた参加を提案する事業を企画し、展開していきたい。							